GEAHSS第3回運営委員会・日本学術会議総合ジェンダー分科会　合同委員会議事録

2019年2月9日（土）10:30〜12:15

於・日本学術会議5-C会議室

出席学協会（33）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 沖縄女性研究者の会 | 科学技術社会論学会 | 化学史学会 |
| 経済理論学会 | 国際ジェンダー学会 | ジェンダー法学会 |
| 社会言語科学会 | 総合女性史学会 | 東南アジア学会 |
| 日本衣服学会 | 日本アメリカ文学会 | 日本英語学会 |
| 日本教育学会 | 日本教育社会学会 | 日本経済学会 |
| 日本言語学会 | 日本語学会 | 日本ジェンダー学会 |
| ジェンダー史学会 | 日本社会学会 | 日本社会教育学会 |
| 日本社会福祉学会 | 日本宗教学会 | 日本助産学会 |
| 日本人口学会 | 日本心理学会 | 日本スポーツとジェンダー学会 |
| 日本哲学会 | 日本認知心理学会 | 日本年金学会 |
| 日本フェミニスト経済学会 | 日本民俗学会 | 法と心理学会 |

委任状（19）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| アメリカ学会 | 九州西洋史学会 | 国際服飾学会 |
| 地域デザイン学会 | 地理情報システム学会 | 日本医学哲学・倫理学会 |
| 日本教育行政学会 | 日本教育心理学会 | 日本基督教学会 |
| 日本経営学会 | 日本認知・行動療法学会 | 日本農村生活学会 |
| 日本犯罪社会学会 | 日本法社会学会 | 日本法哲学会 |
| 日本保健医療社会学会 | 日本労務学会 | 北東アジア学会 |
| 日本村落研究学会 |  |  |

日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会

井野瀬久美惠・伊藤公雄・大串尚代・後藤弘子・杉田敦・巽孝之・仲真紀子・永瀬伸子・藤原聖子・本田由紀・二神枝保

GEAHSS事務局

佐藤清子

日本学術会議総合ジェンダー分科会委員長永瀬伸子氏とGEAHSS委員長井野瀬久美恵氏の協議の結果、井野瀬氏が議長を務めた。

合同委員会に先立ち、出席者および委任状が確認された。GEAHSS加盟学協会68団体（2019年1月31日現在）のうち、出席学協会33、委任状18、計51団体の参加があり、会員の過半数に達していることが認められた。また総合ジェンダー分科会委員15名のうち、11名の出席があることが認められた。よって、GEAHSS運営委員会および総合ジェンダー分科会委員会の合同委員会の成立が宣言された。

議　題

1）前回議事録確認

2）課題共有について

① 今後のギースの会費徴収に関して

ギース委員長より、第2回運営委員会にて依頼した各学協会の意見聴取の結果および内容紹介があった。

* 第2回ギース運営委員会にて依頼した各学協会の意見聴取の結果および内容紹介
* （背景）GEAHSSにかかる事務的な経費（主に人件費）はこれまでは寄附でまかなっていた。一方、人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査の実施費用、同調査にかかわる学術シンポジウムの事務・受付・配布物作成費用等は永瀬伸子氏の調査研究に対するお茶の水女子大学学長裁量経費によってまかなわれているが、これは目的と期限が限定された予算である。ギース運営会議資料作成はギースの担当者が所属大学などで作成した。ギース役員の出張旅費は各自が所属する学会が負担する場合もあるが、それぞれが負担している場合もある。今後の安定的な運営のためには一定の資金が必要である。

　＜ギース加盟学協会からの意見＞

回答数40件（58％）

三つの提案に関する意見（複数回答あり、意見のみの回答あり）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 提案1（一律5,000円） | 10団体 | 14.7％（母数68団体） | 25％（母数40回答） |
| 提案2（会員千人未満5,000円、千円以上10,000円） | 20団体 | 29.4％（母数68団体） | 50％（母数40回答） |
| 提案3（会員一人あたりで計算） | 6団体 | 8.8％（母数68団体） | 15％（母数40回答） |

その他（意見のみ記載、回答保留など）4団体

ギース加盟学協会からの要求：

・事業計画、会費の積算根拠を提示してほしい。

・会費は徴収しないということで加盟した。会費徴収の場合は加盟継続はわからない。

・会費と資金は別に考えてはどうか。会費ではなく、企画に応じて自発的拠出を行う。会費制度ではない参加の形が成立するかを考えてもらいたい。

上記の意見を踏まえながら、会費制度のあり方・事業計画を検討する。ただ、事務局を切り盛りしてくださっている佐藤さんの謝金は格安になっているので、そのあたりは考えていきたい。

②学協会持ち回り制度への移行時期について

　ギース委員長より持ち回り制度に関する現状報告があった。

　現在、約3団体と交渉中だが、会費制度についても未決であり、2019年9月からの持ち回り制度の実現は難しいと考えている（のちほどの意見交換で詳細を説明）

3）第2回ギース運営委員会以降の活動内容紹介

　ギース委員長より現在の加盟学協会数およびアウトリーチ活動についての報告があった。

* 現在ギース加盟学協会は68団体

4）人文社会科学系研究者の男女用同参画実態調査について

日本学術会議総合ジェンダー分科会委員長・GEAHSS幹事（アンケート調査担当）永瀬伸子氏より日本学術会議総合ジェンダー分科会およびGEAHSSが調査主体である今回のアンケート調査結果の中間報告があった。

* これまで人文社会科学の研究環境の問題点が統計として明らかにできないという課題があった。今回、人文社会科学研究者に対して幅広くアンケート調査を実施し、男女共同参画の状況について、共通の課題や分野の特徴を把握し、また理系とも比較することを目的とした。男女差だけでなく、若手研究者の状況、有期雇用の広がり、また研究環境、研究費、研究時間、収入、家族生活、意識、解決の方法についての意見等、調査を通じて課題がより明確になりつつある。ギースの結成によって、はじめてこのような調査の実施が可能となった。調査対象は、ギース会員以外も含めた人文社会科学系研究者である。幅広い分野で標本を回収することについては、日本学術会議第一部会員の協力や声掛けが大きい力を発揮した。人文社会科学系十分野について約3000サンプルの回収ができたことについて、日本学術会議総合ジェンダー分科会委員、日本学術会議第一部会員・連携会員およびギース加盟学会のご協力に深謝したい。設問の不備などもあったが、少ない費用で日本学術会議総合ジェンダー分科会会員の協力のもとでWEB調査を作成した。このため、修正が困難であったことについてお詫びする。今後も定期的に定点観測していきたいと希望している。これから報告書を作成し、可能であれば総合ジェンダー分科会として提言にまでもっていきたいと考えている。分析チームのうち4名が本日のシンポジウムで調査の中間報告を行う。

5）GEAHSSと日本学術会議総合ジェンダー分科会との連携および来年度の予定について

①来年度への提案について、井野瀬委員長より以下の報告・提案があった。

* 第2回ギース運営委員会では2019年の10月から各学協会の持ち回りでの運営が実現できればいいと考えていると報告した。しかしあと半年でその移行ができるかというと難しい。理系の方では、3年前からギース幹事候補の学協会に依頼している。
* 提案：

・2019年ではなく2020年の10月1日からギース幹事会の持ち回り制度に移行することを提案する

・2019年10月1日から2020年9月末までの一年半のギース執行部は、幹事体制の移行を目的とする。

・日本学術会議総合ジェンダー分科会とギースと連携を続ける（年1回の共催公開シンポジウム、運営委員会の場所は日本学術会議を原則とする）。

・ギース幹事学協会が担当する仕事の内容は後ほど提案・確認（意見がある場合は6月末までに事務局に提出）。9月のギース運営会で話し合う。

以上の提案がギース委員長からなされ、ギース運営委員会の賛成多数（出席33学協会中、31学協会の賛成）で承認された。

６）その他

　　次回ギース運営委員会日程については、2019年9月後半の金曜日を予定している。

７）総合ジェンダー分科会とギース運営委員会との共同開催について

今回は、限られた時間の関係から、日本学術会議総合ジェンダー分科会は、ギース運営委員会に参加しつつも傍聴に終始した。

ギース運営委員会において、今後、日本学術会議においてギース運営委員会や年1回の共催公開シンポジウムを行うことが合意された。そこで、今後も、２つの会議が同日に開催されることになる可能性が高い。

今後の会議開催について、総合ジェンダー分科会とギースとの協力体制のより充実した在り方を検討していきたいと考えている（総合ジェンダー分科会委員長）。